

小山市事務事業評価シート

平成30年度版

No. 36

1. 基本情報						
＜1＞事業・業務名		市営住宅長寿命化計画推進事業		＜2＞事業・業務の別		事業
＜3＞選定基準		② 平成29年度新規・継続重点事業		＜4＞継続評価・新規評価の別		継続評価
＜5＞ 総合計画 基本計画 での体系	大項目	5 災害に強く 快適で住みよい 夢を支えるまちづくり		＜6＞担当部(局)		建設水道部
	中項目	5-4 住みたい住み続けたい住環境		＜7＞担当所属		建築課
	小項目	5-4-1 住宅		＜8＞担当係等		設備係
	施策	市営住宅の管理と施設の適正な予防保全				
＜9＞根拠法令・計画等		公営住宅法, 小山市公営住宅等長寿命化計画		＜10＞関連・類似事業		
＜11＞会計		一般 会計		＜12＞予算科目		8 款 5 項 1 目
＜13＞実施期間		年度 ~ 年度		＜14＞全体事業費		千円
＜15＞実施手法		その他		「その他」の場合 ()		

2. Do - 実施 -									
＜16＞事業・業務の概要		安全で快適な住まいを将来にわたって提供するため、予防保全的な観点から計画的に給排水設備や外壁等の改修工事を行うことにより、市営住宅の長寿命化を図る							
目的	＜17＞事業・業務の目的	公営住宅等ストックの長寿命化によるライフサイクルコストの縮減を図るとともに、効率的かつ計画的な改善を実施することで、入居者の安全で快適な居住環境を確保・充実する							
	＜18＞事業・業務の対象	市営住宅							
手段	＜19＞平成29年度の活動内容	工事件名 ・扶桑市営住宅13号棟屋根外壁改修工事 ・扶桑市営住宅(簡平)20・28・29・30号棟給水管改修工事 ・千駄塚市営住宅(中耐)受水槽改修工事							
	＜20＞活動指標(アウトプット)	指標名	単位	平成28年度		平成29年度			
		改修工事の件数	件	計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
成果	＜21＞事業・業務の成果	市営住宅の屋根、外壁及び設備を改修することにより、入居者の居住環境を整備し、施設の長寿命化にも貢献する。							
成果	＜22＞成果指標(アウトカム)	指標名	単位	平成28年度		平成29年度			
		改修済みの棟数	棟	計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
コスト ～資源の投入量	＜23＞投入指標(インプット)	区分	単位	平成28年度		平成29年度			
		コスト	千円	計画	実績	計画	実績	投入率(%)	
		事業費等	千円	13,682	14,060	40,263	34,609	86.0%	
		財源内訳	国・県補助金	千円	12,960	13,338	38,824	33,170	85.4%
			地方債	千円	6,000	6,000	15,500	15,500	100.0%
			その他	千円					
			一般財源	千円	960	1,338	7,824	2,170	27.7%
人件費	千円	722	722	1,439	1,439	100.0%			
正職員	千円 × 人役	7,214 × 0.1	7,214 × 0.1	7,195 × 0.2	7,195 × 0.2				
他の職員	千円 × 人役	×	×	×	×				

3. Check - 評価 -

実績評価	妥当性	<24> 目的・対象の 妥当性	1.妥当である	理由	小山市公営住宅長寿命化計画に基づき、入居者の快適な居住環境の確保及び充実を図るために、効率のかつ計画的に改善を実施することは妥当である。 また、市営住宅を長期に渡って良好に維持管理していくために、経年劣化に応じた改修工事を計画的に実施することは、予防保全の観点からも妥当である。
		<25> 手段や実施手法の 妥当性	1.妥当である		
	有効性	<26> 成果の向上余地	2.向上の余地がある	理由	小山市公営住宅長寿命化計画に基づき、入居者の居住環境の向上と施設のライフサイクルコストを縮減し、計画的に市営住宅の改修を実施できている。 しかしながら最新の工事手法や材料などを取り入れ、検討を行うことで更なる品質の向上を臨むことはできる。
	効率性	<27> 事業費や人件費の 削減余地	1.削減の余地なし	理由	施設の予防保全の観点、長寿命化を図るために必要な改修工事であり、事業費や人件費の削減の余地はないと考える。
	公平性	<28> 受益者負担の 適正化余地	1.適正	理由	受益者は、居住者である。公営住宅法に基づき家賃を算定しているため適正と考える。
	<29>総合評価	2.改善の余地がある	理由	平成28年度に改定した小山市公営住宅長寿命化計画に基づき改修工事を行うことで、公営住宅の長寿命化によるライフサイクルコストの縮減を図り、入居者に安全で快適な居住環境を提供できている。しかしながら工事の手法や材料などを検討することで品質の向上を臨む余地はある。	

4. Action - 改善 -

事業の改善	<30> 事業の課題 事業の改善点 今後の進め方等	対象となる住棟の状態や工事の実施時期に応じて、適切な工事の手法や材料などを検討し、公営住宅長寿命化計画に基づく改修工事を確実に行うことで、ライフサイクルコストの縮減を図り、入居者の安全で快適な居住環境を確保する。			
事業の方向性	<31> 1次評価	所属長	3.現状維持	理由	策定した長寿命化計画に基づき、事業を確実に実行していくことが必要である。
	<32> 2次評価	所管部長	3.現状維持	理由	市営住宅に対するニーズや社会情勢の変化に柔軟に対応できるよう、必要に応じて改修事業の仕様を精査しながら実施していくことが大切である。

5 Plan - 計画 -

事業の計画	<33>実施計画	外壁改修・屋外給水管更新など、市営住宅の長寿命化に貢献する改善工事を実施する。	<35>コスト	区分	単位	平成30年度	平成31年度
						計画	計画
				コスト	千円	45,939	84,139
	<34>活動・成果目標	長寿命化計画に基づき、長寿命化に取り組んだ市営住宅を増やす。		事業費等	千円	44,500	82,700
			人件費	千円	1,439	1,439	